

RI第2510地区

留萌ロータリークラブ

会報

2012 ▶ 2013
WEEKLY REPORT



奉仕を通じて
平和を

田中作次

2012-13年度
国際ロータリー会長

留萌
ロータリークラブ
会長目標

ロータリーを楽しく・
学び・奉仕しよう

会長／山本讓二 幹事／森 幹雄

プログラム

- 本日
来賓卓話
北海道議会議員 石塚 正寛様

配偶者誕生日
2月2日 辻本 順子

- 次週予定

No. 2544

第28回 1月30日

出席報告

前
例
会

会員総数	42名
出免会員	10名
出免出席	6名
基準会員出席	20名
出席率	66.66%

前
々
会

第25回 1月9日

欠席会員	0名
内メイクアップ	0名
修正出席率	100.00%

例会／毎週水曜 12:15～13:15 留萌産業会館2F

会長報告

1. 地区の国際支援事業でタイ国に行っていました、田中会員・西谷会員が帰国されました。大変ご苦労様でした。

ニコニコBOX

・国際奉仕検証ツアーから無事帰りました 23日のプログラムで紹介します 田中会員

前回	461,000円
今回	10,000円
累計	471,000円

幹事報告

・名取RCからの依頼のありました、仙台空港に掲げるバナーとモニュメント建立の支援金を送付いたしました。

プログラム

「留萌地域の振興について」

留萌振興局地域政策部長

後藤 規之様

ゲスト

留萌振興局地域政策部長 後藤 規之 様

1 はじめに

まず初めに、今回のオロロン・スノーパラダイスの実施に関しましては、貴クラブから貴重



な協賛金をいただきまして、心からお礼申し上げます。貴重な財源として、使用させていただきたいと考えております。

今紹介のありました略歴に関してですが、役所に入ってから数年経ち、たまたま当時の横路知事が民間感覚を行政に取り入れようと始めた「民間派遣研修」で東京の三菱商事本社の新規事業部というところの「エンタテインメント・プロジェクトチーム」で映画ビジネス、テーマパーク開発などに2年間関わってきました。

三菱商事は皆さん、ご存じのように、世界に冠たる総合商社ですから世界中のありとあらゆる情報が集まりますが、実は、商社マンは皆さんが思っている程、ノーハウを持っていません。特に新規事業部は、これまで商社マンが経験したことのない業界でしたから、特にそれが目立ちました。これが自分の仕事の進め方は参考になりました。まず業界を知るために徹底的に人に会います。そして、自分の不得手なところは他の会社をどんどん仲間に入れてフォーメーションを組んでいきます。そこでは三菱グループが威力を発揮します。こういう一つのものを形にするのに、色々な役割を担った企業と組んで前に進めるコーディネーション能力は本当に目を見張るものがありました。こんな経験を積みながら役所に戻り、御覧のような部署を経験し現在、留萌振興局に所属しております。

2 「支庁」から「振興局」へ

私が留萌振興局に勤務したのは、まさに平成22年4月で、「留萌支庁」が「留萌振興局」に変わったその日に留萌に来たわけです。皆さんからすると、単に、「支庁」が「振興局」に看板

が変わっただけではないか。「総合振興局」ではなく、「総合」のない「振興局」だから格落ちじゃないか。といったおしかりをいただいた訳です。支庁制度改革の中で、様々な議論はありましたが、最終的に複雑化している現代社会の中で様々な行政需要に的確に対応するためには、支庁、土現、保健所などを統合して出先機関の総合化を図るという方向でまとめられています。その一つは「総合性の発揮・政策展開機能のアップ」、資料が示すように、2段階で「支庁」が総合出先機関である「振興局」になっています。また、「地域振興施策の充実強化」として、各振興局に独自組織の設置が認められ、留萌振興局には、「健康産業支援室」が置かれました。この内容については、後ほどご説明いたします。

3 「留萌」の現状

次に、振興局が置かれている留萌の現状について、象徴的な部分だけ触れておきたいと思います。まず人口ですが、国勢調査によると、平成22年は平成17年に比べマイナス9.5%と檜山振興局に続く、全振興局2番目の落ち幅となっています。また、産業構造でいいますと、管内ですが、行政サービス部門が4分の1以上を占め、建設業の比重も高い地域となっており、高等教育機関がない中では、雇用の受け皿が増えない限り、なかなか人口減少を止めるのは難しい状況と考えられます。

4 地域振興の取組

このような中で、振興局としましては、これまでに取り組んできた中で、特徴的な地域振興の取組を簡単に説明させていただきます。「健康産業支援室」、「よりみちの駅」、「オロロンスノーパラダイス」、この3つの取組について説明いたします。

まず、健康産業支援室の取組です。これは、留萌管内の多種多様で高品質の食資源、観光資源などを活用した産業づくりへの気運の高まりなどから発足したもので、健康産業支援室が事業を推進していく上で、「留萌健康産業活性化推進委員会」を設置して、委員は全員女性とい

うユニークな構成で、女性の視点により色々事業推進についての助言をいただいております。

「心の健康を育む書店誘致」ということで三省堂の誘致に取組、三省堂さんとは包括連携協定を結び読み聞かせ会など、様々な応援をもらっています。「食療の活用・推進」では、浜の薬と言われる「ハマボウフウ」の資源復活・商品化などに取組んでいます。更に、「健康資源の活性化」では今も健康の駅で続いています。 「コミュニティカフェテリア」の推進やニューツーリズム事業として、ゴールデンビーチでのオートキャンプフェスティバル、学校給食の地産地消化に取組んできたところです。

また、これらの取組の基本となるプランを、平成25年度から3年間の計画で「新留萌健康産業創出支援プラン」の策定を進めているところです。

「よりみちの駅」については、既に2年目を迎え、少しずつ定着していると勝手に思っていますが、元々は留萌市内に「道の駅がない」、たまたまですが、「合同庁舎のトイレを土日に観光バスが借りに来ていた（今は、機械警備になりできなくなりました）」という経緯があり、「振興局」になったことでもあり、地域の方に用事がなくてもぶらっと寄っていただけるような空間づくりをしようということで、庁内の若手係長職などが集まり企画したものです。資料にあるような取組を行っており、ハーブガーデンを作ったり、観光パンフなどもありますので、皆さんぜひお寄りいただければと思います。

最後に、「オロロン・スノーパラダイス」ですが、元々のきっかけは、留萌の冬は非常に厳しく寒い中、なかなか外に出て活動的に楽しむ機会が少ないなあと思い、特に子どもたちにとってはその機会がないと感じたことから、まず色々トライしてみようということで、昨年2月に始まったものです。

留萌は風が強いこともあり、ある程度、しっかりキャンドルを覆うことができるものということ、製作体験会を通じて地域との関わりに広がりを持つということから、ワックスキャンドルづくりから始まりました。

平成24年の1月に3回の製作体験会を始め、ワックスキャンドルを約1,200本ほど製作し、それを活用しております。この際、会場となった振興局庁舎2階講堂を開放し、子どもたちには思いっきり遊んでいただきました。

また、留萌の波濤、けあらし、猛吹雪など他の地域にはない非日常性を体験できたら面白いということで、海のふるさと館の敷地内にイグラーをつくり、試しに宿泊体験を行っております。宿泊に際しては、もちろんマイナス20度にも耐えられる極寒用シュラフを使用し安全対策を取っております。商店街キャンドルナイトは、国道沿いを灯りで飾ろうということで実験的にいき、それが今年度の商店街独自の取組につながっております。

振興局庁舎を活用した取組として、振興局前をキャンドルで飾り、駐車場を使用して雪の迷路を製作し、更に講堂の開放や展示などを催したりしております。延べ1,200名の方が来場され、まずは目標の1,000名を上回ることができました。

今年度の取組については、チラシを添付させていただいており、2月の本番に向けてのワックスキャンドルづくり体験会を行っていますが、ある程度定着してきたのか、一般参加者が増えています。本番の「オロロン・スノーパラダイス2013」2月に行いますが、バージョンアップした「雪のわくわく迷路」や、アトラクション、イグラー体験、キャンドルナイトなど、様々なイベントを行うことにより、留萌の冬の生活を楽しんでもらおうと思っております。

期間は、2月6日(水)から11日(月)までを予定しており、6日(水)と7日(木)は海のふるさと館でけあらしの里、雪のわくわく迷路とキャンドルナイト～光のファンタジーは、振興局庁舎周辺で、8日(金)から11日(月・祝)の日程で行います。その中で、子どもたちが楽しめるミニゲームなどのアトラクションを考えています。

今年度は、庁舎内でもいくつか体験プログラムを考えております。例えば、9日(土)には、「女子限定 SPバレンタインチョコレートづくり大作戦」(「SP」はスペシャルとスノパラの両

